

キャクストン版『黄金伝説』の校訂版作成：第1巻および第2巻

Editing Caxton's *Golden Legend*, vols 1 & 2

田口 まゆみ (TAGUCHI Mayumi)

研究員は過去25年に渡り、中世宗教文献古写本の本文校訂を研究対象としてきた。その成果は国際的学術雑誌 (*Poetica, Mediaeval Studies*) および図書 (Middle English Texts シリーズ、第42巻、第56巻、Universitätsverlag Winter) によって発表してきた。今回、インキュナブラ (揺籃期印刷本) の校訂を計画し、2015年に同タイトルによる科研費基盤 (B) (5年) を獲得した。課題の研究は順調に進み、その結果予算が不十分となり分野別研究組織に申請した。

キャクストン訳『黄金伝説』 (*The Golden Legend*) は、キャクストンの出版物の中でも最大級の長編作品である。このうち第1巻「キリストの生涯と期節 (Temporale)」と第2巻「旧約聖書物語」について校訂・出版することが科研研究課題である。本企画は Early English Text Society (初期英語文献協会) の審査を経た企画であり、本夏完成原稿を提出し、審査に合格したので2020年、2021年の、毎年2冊選ばれる刊行物の1冊としてオックスフォード大学出版局から刊行されることになった¹。

この科研課題では、年1回の国際学会発表を目標としてきた。2019年度はアイルランド、University College Dublin で開催された Early Book Society Biennial Conference (初期刊行本協会) で単独口頭発表を行った。2018年度分野別研究組織研究成果としてこれを報告する。

本研究発表では Caxton が翻訳・印刷した『黄金伝説』の現存本において初刷と2刷が混製本されていることについて、その理由を考察し、英訳聖書の作成・出版が15世紀英国で禁止されていたことと関連づけて仮説を立てた。

『黄金伝説』は Caxton の後継者によって繰り返し再版されたが、Caxton 自身による出版としては初版のみが知られている。しかしこの初版は部分的な再刷が行われており、これは一刷とは異なる活字を用いていることなどからわかる。そして一刷しかない部分と、一刷と二刷が様々な組み合わせで混在する部分があり、このことから、印刷所が途中で発行部数を減らす変更をしたこと、また、恐らく短期間の間に再度計画を変更し、発行部数を増やしたことがわかる。その結果二刷を行ったページの在庫の一部は一刷と二刷が混在した形となり、一刷と二刷が混在する本ができることになった²。なぜ発行部数について何度も判断を覆したのか。それは Caxton が『黄金伝説』に付け加えた旧約聖

¹ EETS は、1864年に設立されて以来、古英語、中英語の作品の校訂本を英文学研究者に広く提供してきた。本『黄金伝説』は協会念願の企画であり、かつ日本人による EETS からの出版は初めてである。 <http://www.eets.org.uk>

² 但し、後世、修復のためにミックスになった本もある。

書物語が、当時禁止されていたはずの聖書の忠実な新訳を含む事実を懸念してのことではなかったのか。決定的な証拠は残っていないながら、当時の聖書物語の需要および受容について類似の文献（研究員が校訂した *Historye of the Patriarks* 他）の例と比較しつつ議論することができた。